

平成 29 年度 日本教育大学協会 全国美術部門協議会

## 第 56 回 大学美術教育学会

後援：広島県教育委員会・東広島市教育委員会・広島大学

### 広島大会 特別企画

「これからの美術教育の在り方をグローバルに考える一日米交流を通して」

開催日時：2017 年 9 月 23 日（第 1 日） 15:00～17:30

会場：広島大学教育学部 講義棟 K 棟 2F K201

#### 第一部：特別講演

ロバート・セイボル博士 (Dr. Robert Sabol)

(全米美術教育学会 (National Art Education Association) 前会長)

#### 演 題

全米視覚芸術スタンダードの美術学習評価と礎石となるアセスメント・モデル

(Assessing Learning in Art with the American National Visual Arts Standards and Model Cornerstone Assessments)

#### 第二部：座談会

青山寿重氏 (広島県尾道市立山波小学校教諭・文部科学大臣優秀教職員賞受賞者)

水島尚喜氏 (美術科教育学会代表理事・聖心女子大学教授)

小野康男氏 (大学美術教育学会理事長・横浜国立大学教授)

司会者 三根和浪 (広島大学大学院教育学研究科准教授)

特別企画の第一部では、アメリカ合衆国から全米美術教育学会の前会長であるロバート・セイボル博士を招き、2014年に公表された全米視覚芸術スタンダードが目指す教育の質的転換とスタンダードが学校教育に及ぼしている影響について講演していただきます。新しいスタンダードの特徴の一つとして、就園前から高等学校までを通して身につけるべき知識・技能・能力の内容と合わせて、アセスメント・モデルが提示されることが挙げられます。セイボル博士は、スタンダードの執筆者の一人であり、アセスメント・モデル開発の委員長を務めています。創造性、批判的思考・問題解決、コミュニケーション、協働のような 21 世紀型スキルと関連する資質や能力が美術教育ではどのように定義され、どのような方法で測られるのかを中心にご報告いただきます。

特別企画の第二部では、日本側から広島県尾道市立山波小学校教諭の青山寿重氏 (文部科学大臣優秀教職員賞受賞者)、美術科教育学会代表理事の水島尚喜氏 (聖心女子大学教授)、日本教育大学協会全国美術部門代表・大学美術教育学会理事長の小野康男氏 (横浜国立大学教授) にご登壇いただき、セイボル博士による報告内容、学習指導要領の改訂、学校の実状を踏まえて、美術教育で育むべき資質や能力をテーマにディスカッションしていただきます。日本とアメリカにおける美術教育の現状と課題を理論レベル及び実践レベルで共有しつつ、これからの美術教育で育成すべき人間像と学習指導の在り方について議論を深めたいと思います。

## 【講師紹介】

### ◆ ロバート・セイボル (Robert Sabol)



米国インディアナ州パデュー大学大学院芸術学科・芸術学講座教授。米国インディアナ大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士号 (Ph. D.) 取得。23 年間に及ぶ小学校での教職経験、及び、インディアナ州教育省やアメリカ合衆国教育省などでの行政職務経験がある。全米美術教育学会 (National Art Education Association) 前会長。主な著書には、『美術教育の専門職能力開発：美術教育者のニーズ、問題、関心事』(2006 年、NAEA 出版)、『落ちこぼれゼロ運動：美術教育への影響』(2010 年、NAEA 出版) などがある。

## 【登壇者紹介】

### ◆ 青山寿重



広島県尾道市立山波小学校教諭。広島県公立小学校での教職員歴 35 年。第 48 回広島県造形教育研究大会 (尾道大会/尾道市立瀬戸田小学校) にて図画工作科カリキュラム開発研究主任を担当。平成 24 年度広島県優秀教職員賞受賞。平成 25 年度文部科学大臣優秀教職員賞受賞。現在、米国インディアナ州の小学校との国際交流を通して ESD と関連させた図画工作科の授業開発を進めている。

### ◆ 水島尚喜



聖心女子大学教授。東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了。文部科学省学習指導要領 (「美術」及び「図画工作」) 作成協力者。元全国大学造形美術教育教員養成協議会会長。平成 28 年度より美術科教育学会代表理事。ローハンプトン大学 (英)、ボローニャ大学 (伊) 等で客員教授を務める。共編著に『図画工作・美術教育研究 第三版』(2010 年、教育出版) 等、多数。「子ども」と「アート」のミッシングリンクを可視化するべく美術教育学研究を行なっている。

### ◆ 小野康男



横浜国立大学教育学部教授。神戸大学博士課程文化学研究科単位取得満期退学。平成 28 年度より日本教育大学協会全国美術部門代表・大学美術教育学会理事長を務める。精神分析理論を取り入れた身体論による美術研究を主とし、現在はイメージの人類学に関心をもつ。共訳書に、ジャン＝フランソワ・リオタール『文の抗争』(1989 年、法政大学出版局)、リュック・フェリー『ホモ・エステティクス』(2001 年、法政大学出版局)、ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『時間の前で』(2012 年、法政大学出版局) などがある。